

⑭オオキンケイギク

オオキンケイギク (*Coreopsis lanceolata* L.) キク科 原産地：北アメリカ

導入経緯：1880年代に観賞用、緑化材料として国内各地に導入された。

冬季の地被効果が高く道路の法面緑化や工事修復地の緑化に用いられた。

生態：路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育する。繁殖力が旺盛で種子は風で運ばれやすいため、各地の河川や道路周辺に大群落を形成する。

【調査結果概要】

文献調査によると、県内では7市町村において確認記録がある。ワイルドフラワーによる緑化で全国的に多用された経緯があり、本県においても、各地の路傍、河川敷などに植栽されている可能性が高い。

花期は5月から6月であるため、今回の8月末のアンケート調査で寄せられた情報はなかったが、やせた土地や荒れた土地でも生育が可能であり繁殖力が強いことから、生育範囲の拡大による県内の在来種への影響が懸念される。

他県では、花が美しく、長年、地域住民に親しまれてきたことから、開花期の刈り取りには、苦情が寄せられる等、対応に苦慮しているケースがある。

オオキンケイギク；環境省HPより



文献調査によりオオキンケイギクが確認された市町村

